

# 社会福祉学科 カリキュラムマップ(2024年入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。

①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)  
 ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)  
 ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)  
 ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)  
 ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	
社会福祉学演習1	演習	2	2	社会福祉に関するテーマを設定し、論文・書籍・新聞記事・ビデオ・その他のドキュメントなどを題材としながら、小グループによる共同研究を行う。演習を通じて「読み」「書き」「討論」に加え、「問題発見」「分析」「思考」「発表」のスキルを学ぶ。	・自ら主体的に学習を進めていく習慣を身につけること。 ・自ら主体的に学習を進めていくためのスキルを身につけること。 ・身近なところから福祉についての興味や関心をもつことを日常化し、学ぶ面白さを知ること。 ・福祉問題の現状や背景を理解し、解決策について考える力を身につける。	◎		○			
社会福祉学演習2	演習	3	2	社会福祉学に関するテーマについて、文献・資料等による調査、プレゼンテーションや討論を通じて学術的な研究論文を作成する基本的な考え方や、技術を獲得することに目的をおく。	1. 社会福祉学に関する現代の事象を理解し、研究テーマを設定する。 2. 研究論文執筆に必要な文献収集と精読の方法を身につける。 3. 情報・研究リテラシー、著作権に関して正しい理解を得る。 4. 授業内容を踏まえて研究計画書を執筆する。	◎	○	◎		○	○
社会福祉学演習3	演習	4	2	各自で設定した研究テーマ・計画に基づき、卒業論文の作成を進める。社会福祉学演習4に引き続き、プレゼンテーションやディスカッションを通じ自身の研究論文を精緻化していく。また、必要に応じて個別指導の時間を別途設定する場合もある。	1. 策定した研究計画に沿って、研究活動を遂行する。 2. 中間報告会等を活用して、研究内容に関するプレゼンテーションを実施する技量を身につける。 3. 研究論文を執筆する。	◎	○	◎		○	○
社会福祉学演習4	演習	4	2	プレゼンテーションやディスカッションを通じ自身の研究を精緻化し、卒業論文の完成をめざす。	1. 策定した研究計画に沿って、研究活動を遂行する。 2. 研究論文(12000字以上)の執筆を完了する。 3. 論文の内容についてプレゼンテーションを行ったり、ディスカッションを行う技量を身につける。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
社会福祉概論1	講義	1・2・3・4	2	社会福祉の成立は、近代社会以降の社会問題の発生によるものである。個人の問題として捉えられてきた貧困や疾病、傷害、高齢といった点を社会問題として捉え、その対応として社会福祉が展開されてきた。現代においては社会問題は多様化し、複雑化してきていると同時に、社会福祉は一部の人を対象とするのではなく、現代社会に暮らす全ての人を対象とするものへとなってきた。社会福祉を考えることは、自らの生活を見つめることであることを理解し、積極的に社会に関わるきっかけとして講義をおこなう。	1. 社会福祉の背景には、社会問題が存在していることを理解し、その問題点を整理することができる。 2. 分野ごとの社会福祉政策およびソーシャルワークの展開を学び、社会福祉の対象について理解し、対象を取り巻く問題について説明することができる。 3. 現代社会の社会課題について自らの意見を文章化することができる。	◎				○	
社会福祉概論2	講義	1・2・3・4	2	社会福祉の成立の背景には社会問題があり、その社会問題は歴史の経過の中で変化し、その都度、社会福祉のあり方も変化してきた。社会的弱者と呼ばれる立場にある人々をどうらる視野を広げる理論や哲学を理解すると共に、その応用の中で、10年後、20年後の社会を視野に入れて社会福祉を検討する必要がある。現在、生じている社会問題を見つめると同時に、今後の課題を検討する場として講義を展開する。	1. 社会福祉の成立を歴史的に理解し、現代社会における社会福祉に求められる役割と課題を整理して考察することができる。 2. 社会福祉の土台となる理論や哲学を学び、新たな時代の社会福祉のあり方を検討することができる。 3. 現代社会の社会課題について自らの意見を文章化することができる。	◎				○	○
人体の構造と機能及び疾病	講義	2・3・4	2	保健・福祉・教育の領域で必要とされる医学に関わる知識を習得する。	1. 人体の構造や機能について理解する。 2. 人の成長・発達・老化について理解する。 3. 疾病について理解する。 4. 障害について理解する。 5. 疾病と日常生活行動に関する知識について理解する。 6. ICF・リハビリテーション・健康について理解する。	○	◎	○			○
社会学と社会システム	講義	1・2・3・4	2	ミクロレベルからマクロレベルに至る社会システムの構造と、近代化・産業化・情報化を軸とする社会システムの変動を現代社会学の社会理論によって把握する。また、理論の紹介にとどまらず、現代社会をめぐる具体的な社会事象、社会問題も考察する。	1. 現代社会学の概念と理論についての基礎的な理解をする。 2. 具体的・現実的な現代社会の事象に関する知識・認識を理解・習得する。	◎	○	○			
社会保障論1	講義	2・3・4	2	社会保障の全体像を把握することを目指すとともに、所得保障、とくに公的年金制度(国民年金、厚生年金など)の基礎的知識を獲得し、その理解を深める。	1. 人口減少下の日本社会が抱えるリスクについて基本的理解をする。 2. 社会保障の体系、役割について基本的な知識を獲得する。 3. 公的年金制度の仕組みと課題について理解する。	◎		○			○
社会保障論2	講義	2・3・4	2	医療・介護保険、労働保険の基礎について学習するとともに、少子高齢化の進展に伴って社会保障制度がどのような課題を抱えているかを考える。	1. 医療・介護保障の基礎的な知識を獲得する。 2. 労働保険の基礎的知識を獲得する。 3. 少子高齢化が進展する中で社会保障制度が抱えている課題について考えるようになる。	◎		○			○
社会福祉調査法	講義	3・4	2	ソーシャルワーカーとして、専門性の高い実践は、論拠に基づいたものであることが前提とされる。そのため、論理的手続きに沿った量的・質的調査に関する知識と、調査を実施する際の具体的な方法について、学んでいく。	1. 社会福祉調査の意義と目的の概要について理解できる。 2. 社会福祉調査において、なぜ倫理や個人情報保護が必要なのか理解できる。 3. 量的調査の理論と方法について理解する。 4. 質的調査の理論と方法について理解する。	○	◎	◎			

科 目 名	授業形態	配当年度	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー	<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。</p> <p>①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)            ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)            ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)            ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)            ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)</p>									
ソーシャルワーク論1	講義	1・2・3・4	2	社会福祉における専門職による援助活動や実践体系を表すソーシャルワークについて基本的な知識を身につけ、専門的な援助の方法や課題について理解する。	1. 社会福祉とソーシャルワークの関係を学び、ソーシャルワークの形成過程を理解する。 2. 社会福祉における対人援助職の根拠法を学び、ソーシャルワークの定義を理解する。 3. ソーシャルワークの専門的価値と倫理綱領を理解する。 4. ソーシャルワークにおける社会正義と人権尊重の意味・方法・課題を理解する。	○	○	○	◎	
ソーシャルワーク論2	講義	1・2・3・4	2	個人から社会への視点の広がりやソーシャルワーク、相談援助専門職の概念と範囲の整理、今日的な課題として総合的かつ包括的な相談援助、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、職種間協働について学ぶ。	1. ソーシャルワークの意味・目的・方法・視点の広がりを理解する。 2. 社会福祉制度改革によるソーシャルワーク実践の転換と新しいソーシャルワーク実践の動向を理解する。 3. 多職種、多機関との連携の目的と方法、ソーシャルネットワークの目的と方法を理解する。 4. 総合的かつ包括的な相談援助の意味・目的・方法を理解する。	○	○	○	◎	
ソーシャルワーク論3	講義	2・3・4	2	援助関係の本質と形成の仕方について学び、専門的援助関係を基礎に展開される相談面接の技術について実践的に学ぶ。さらに、専門的援助が展開されるプロセスについて学ぶ。	1. ソーシャルワークにおける援助関係について説明できる。 2. ソーシャルワークにおける基本的な面接技術について説明できる。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について説明できる。 4. ソーシャルワークにおける記録、ケアマネジメントとの関係性、スーパービジョンとコンサルテーションの基礎知識について説明できる。	○	○	◎	◎	
ソーシャルワーク論4	講義	2・3・4	2	クライアントが置かれた状況を理解するための枠組みである「実践モデル」と、多様な援助方法である「実践アプローチ」について理論的に学び、クライアント・家族の持つ問題に応じてそれらをどう使い分けるかということについて学ぶ。	1. ソーシャルワークにおける「人と環境の相互作用」の意味について説明できる。 2. 相談援助における実践モデルとアプローチに関する基礎知識について説明できる。 3. グループワーク及びコミュニティワークの基礎知識について説明できる。	◎	◎	○	○	
ソーシャルワーク論5	講義	3・4	2	ソーシャルワーカーとクライアントやその家族との関係だけではなく、ソーシャルワーク援助に不可欠な、集団を用いたの援助方法を理解するとともに、ソーシャルネットワークの構築や関連機関との連携、そして、スーパービジョン、記録がソーシャルワークにとってどのような意味をもつかを理解する。	1. グループワークの意義・目的・方法を理解する。 2. 多職種、他機関との連携の目的と方法、ソーシャルネットワークの目的と方法を理解する。 3. スーパービジョンの目的・方法を理解する。 4. ソーシャルワークの記録の意義・種類・活用方法について学び、適正な記録作成ができる。	○	○	○	○	◎
ソーシャルワーク論6	講義	3・4	2	事例分析等を通じて、ソーシャルワークの知識と理論、方法及び倫理を統合して援助を展開できる能力を養う。	1. 福祉問題が生産する構造について理解する。 2. 児童・高齢・障害領域等の事例に対して、適切な支援方法を考察することができる。 3. 個人情報保護について理解する。 4. 社会資源を活用し、他領域の専門職と連携する方法について理解する。	○	○	○	○	◎
地域福祉と包括的支援体制1	講義	2・3・4	2	社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の基本的な考え方、内容、とくに包括的支援体制の方法や課題について学ぶ。	1. 多様化する地域生活課題について理解する。 2. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制について理解する。 3. 地域福祉のガバナンス、多機関協働について理解する。 4. 地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の推進主体について理解する。	○	◎	◎	○	◎
地域福祉と包括的支援体制2	講義	2・3・4	2	社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の方法、とくに地域を基盤としたソーシャルワーク、福祉計画の意義と策定方法、福祉行財政システムについて学ぶ。	1. 地域を基盤としたソーシャルワークの方法について理解する。 2. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する。 3. 福祉計画の意義と種類、策定方法について理解する。 4. 福祉行財政システムについて理解する。	○	◎	◎	○	◎
福祉経営論	講義	4	2	福祉サービスの適切かつ効果的な提供には、それを担う組織が必要であり、それをいかに体制でつくりどう運営するかが大きな課題である。こうした課題の重要性と組織運営の基礎理論や実際に関する理解を図り、組織社会で仕事をすることの基礎的な知識習得を目的とする。	1. 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。 2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 3. 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。	○	◎	○	○	◎
障害者福祉論	講義	1・2・3・4	2	障害者福祉を学ぶ意義を理解し、現代社会における「障害の捉え方」と障害者施策の概要について、法律・制度を中心に学ぶ。	1. 障害者福祉の歴史的展開について理解する。 2. 日本の障害者福祉施策を理解する。 3. 障害者福祉サービスの支援内容と課題を理解する。	◎		○		○
児童福祉論	講義	1・2・3・4	2	児童の権利について理解を深め、現代社会における児童及び児童福祉政策の現状と課題について学習する。	1. 児童の特性について理解する。 2. 児童の権利について理解する。 3. 児童福祉の史的展開について理解する。 4. 児童福祉問題の現状と背景、解決策について学ぶ。	◎		○		○

科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー	<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。</p> <p>①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)          ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)          ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)          ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)          ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)</p>									
高齢者福祉論	講義	1・2・3・4	2	少子高齢社会の特徴と課題を明らかにする。高齢者支援の歴史や、介護保険制度を含めた法制度について学習する。	1. 高齢者への理解を深める。 2. 少子高齢社会における高齢者への支援方法としての介護過程・介護予防・終末期ケアについて理解する。 3. 相談援助活動で必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護にかかる法制度について理解する。	◎		○		○
公的扶助論	講義	2・3・4	2	貧困・低所得についての基本的な理解を深め、生活保護制度の仕組みを理解するとともに、生活保護対象者や生活保護政策の動向について学習する。	1. 現代社会の中の貧困問題の実態、背景について理解する。 2. 日本の生活保護制度の仕組みについて理解する。 3. 日本の生活保護制度の意義と課題について理解する。	◎		○		○
医療福祉論	講義	2・3・4	2	保健医療サービスの体系として保健医療制度の枠組みを学び、患者・家族の生活を支援する医療社会福祉の役割を理解する。	1. 患者・家族が保健医療サービスを有効に活用するために必要なわが国の保健医療制度の体系を理解する。 2. 医療を必要とする患者・家族の生活を支援するために社会福祉実践がどのように展開されているかを理解する。 3. 療養を支援する医療ソーシャルワーカーや専門職の役割とチーム医療・連携の概念について理解する。	◎	○	◎		
権利擁護を支える法制度	講義	2・3・4	2	社会福祉の権利構造および権利擁護の実践的関わりについて、法律・制度を中心に学ぶ。	1. 社会福祉の基礎となる基本的人権について理解する。 2. 人権侵害の歴史について理解する。 3. 権利擁護の歴史的背景と現代的課題を把握する。 4. わが国の権利擁護施策とその課題を理解する。	○		○	◎	○
刑事司法と福祉	講義	2・3・4	2	犯罪行為者に対する司法や処遇、福祉との関係について学ぶ。	1. 犯罪とその対策について理解する。 2. 刑事司法および少年司法の流れと手続きについて理解する。 3. 施設内処遇及び社会的処遇について理解する。 4. 多様なニーズを有する犯罪行為者について理解する。 5. 犯罪被害者支援について理解する。	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク演習1	演習	2	2	相談面接に関する基礎的な知識・技術とともに、インテークからアフターケアまでの相談援助(面接)の展開過程を理解し、問題解決に向けた思考・判断を行っていく能力を養う。	1. 相談援助に関する基礎的な知識・技術の意義を理解し、説明できる。 2. 相談援助の知識・技術に関する他の科目との関連性も視野に入れつつ、具体的な事例・実態に基づいて相談援助職に求められる能力について議論できる。		◎	○	○	
ソーシャルワーク演習2	演習	2	2	ソーシャルワークが対象とする具体的な相談援助事例(ビネット等)を題材に各事例へのアプローチの方法について学ぶ。合わせて、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導(ロールプレイ等)により専門的援助技術への理解を深める。	1. ソーシャルワークの対象となる人々および問題の実態、課題について説明できる。 2. ソーシャルワークが対象とする具体的事例に基づき、専門的知識・技術を用いた支援方法について議論できる。 3. ソーシャルワークの対象となる人々が抱える問題の解決に向け、根拠に基づいた思考・判断ができるようになる。		◎	○	○	
ソーシャルワーク演習3	演習	3	2	地域福祉の基盤整備と開発およびソーシャルワークの各種実践モデルとアプローチに関する事例検討を通じてソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。	1. 地域福祉の基盤整備と開発に関する基礎的な知識・技術について説明できる。 2. 相談援助に関する具体的な事例・実態とともに、相談援助実践で用いられる各種の実践モデルやアプローチの内容を説明することができる。 3. 相談援助実践を理解し問題解決を図っていく上で必要となる能力について議論できるようになる。	○	◎	◎	○	○
ソーシャルワーク演習4	演習	3	2	実習を通じて体験した事例および他のソーシャルワークの対象事例の検討を通じて、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。	1. 社会福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術を実践的に習得し、これらを専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができる。 2. 変動する現代社会における社会福祉問題に対応するためにソーシャルワーカーに求められる技能について議論できる。	○	◎	◎	◎	○
ソーシャルワーク演習5	演習	4	2	社会福祉士(ソーシャルワーカー)に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。とくに、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用しながら、コミュニティソーシャルワークについて学ぶ。	1. コミュニティソーシャルワークのプロセスについて学ぶ。 2. 地域住民のニーズの把握、アセスメントの方法について学ぶ。 3. ソーシャルサポートネットワーク等ネットワークに係る知識・技術について理解する。 4. 地域における社会資源の活用・調整・開発に係る知識・技術について理解する。 5. 地域における福祉サービスの評価に係る知識・技術について理解する。	○	◎	◎	○	◎
ソーシャルワーク実習指導1	演習	2	2	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、事前学習を中心に授業をすすめる。	1. ソーシャルワーク実習の意義を理解する。 2. ゲスト講義等を通じて、福祉現場の現状や課題について実感的に理解する。 3. 社会福祉専門職として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を身につける。		◎	○	○	
ソーシャルワーク実習指導2	演習	3	2	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、個々の実習配属先に対応した事前学習を進める。	1. 配属実習先の機関、施設、事業所等に関する理解を深める。 2. 適切な実習テーマを設定する。 3. 実習スケジュールに適応した実習計画を策定する。		◎	○	○	○

科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術) ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度) ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)										
ソーシャルワーク実習指導3	演習	3	2	「ソーシャルワーク実習1・2」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づいた事後学習を進める。	1. 実習経験について適切に記録し、言語化することができる。 2. 実習配属機関の現状、利用者の状況及び課題等について考察することができる。 3. 実習中及び実習後の課題について考察し、課題を達成する方策について提示することができる。 4. 上記の事柄についてプレゼンテーションを実施し、他の履修生と共有できる。		◎	○	○	○
ソーシャルワーク実習1	実習	2	2	ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワーク(相談援助)に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	1. 配属実習先の状況、機能等について理解する。 2. 配属実習先の職員の構成、職務について理解する。 3. 利用者とのコミュニケーションを通じて、ラポールを形成できるようにする。 4. ソーシャルワーカーに求められる援助技術を体得する。 5. ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理について理解を深める。	○	◎	◎	○	◎
ソーシャルワーク実習2	実習	3	4	ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワーク(相談援助)に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	1. 配属実習先の状況、機能等について理解する。 2. 配属実習先の職員の構成、職務について理解する。 3. 利用者とのコミュニケーションを通じて、ラポールを形成できるようにする。 4. ソーシャルワーカーに求められる援助技術を体得する。 5. ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理について理解を深める。	○	◎	◎	○	◎
地域連携実習	実習	2・3・4	2	2, 3年次に「ソーシャルワーク実習」を経験した学生のアドバンスプログラム、また両資格国家試験受験資格を取得しない学生に対する活動体験プログラムとし、実際の地域活動にかかわりながらその意義を具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。これと併せて、各プログラムに関連する福祉系資格取得のインセンティブを学生に付与する。	1. 活動体験先の状況や機能、課題等について理解する。 2. 利用者、地域住民、職員などの関係者とのかかわりを通じて、ラポールを形成できるようにする。 3. 活動の担い手に求められる知識、態度、資質、技法等を体得する。	○	◎	○	○	◎
天理教社会福祉論	講義	1・2・3・4	2	天理教による社会福祉の教理的根拠や歴史、組織や主体、実践内容、課題などを学び、それを通して、天理教社会福祉に内在する「他者への献身」また「誠真実」という精神について考察する。	・近年注目されている宗教による社会貢献など宗教と社会福祉を取り巻く状況を踏まえ、宗教特に天理教における社会福祉の考え方や歴史、活動内容などについて知り、説明できる。 ・天理教と社会福祉について学ぶことを通じて、本学の「建学の精神」に基づく「他者への献身」といった態度を身につける。	○		○		◎
精神医学と精神医療1	講義	2・3・4	2	職業上など何らかの理由で必要となる精神科学の知識について理解する。	1. 精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療について理解する。 2. 近年、診断体系がめまぐるしく変化し、また生物学的研究の進展に伴い、精神科学におけるパラダイムが急速に変貌を遂げつつある現状を理解する。 3. 精神医療の歴史と診断、治療についての重要事項を理解する。 4. 精神疾患の症状と治療について、統合失調症を中心に理解する。	◎	○			
精神医学と精神医療2	講義	2・3・4	2	精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療についての概略を中心に学ぶ。	1. 精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療について理解する。 2. 精神疾患の症状と治療について、気分障害、うつ、認知症、神経症、児童思春期精神疾患を中心に理解する。	◎	○			
現代の精神保健課題と支援1	講義	2・3・4	2	すべての国民の精神的健康が課題となっている現代において、従来の精神障害者への支援だけでなく、新たに生じる精神保健問題にも対応していく専門職としての精神保健福祉士の役割は拡大している。社会環境の変化を通して精神保健を理解し、「精神的健康」への理解力、思考力をさらに深めることを目標とする。	1. 現代の重要な精神保健問題となっている、アルコール関連問題、薬物問題、自殺等の現状、取り組み、課題を理解する。 2. 新たな課題となる災害支援、犯罪被害者支援、性同一性障害等についての理解、対応を理解する。 3. 地域精神保健に関する諸活動の実践を通して、精神保健の維持・増進のために機能する専門機関、関連職種との役割と連携について理解する。 4. 主要各国の精神保健の取り組み、世界保健機関(WHO)の活動を学び、これからの精神保健の課題と支援を理解する。	○	◎	○	○	○
現代の精神保健課題と支援2	講義	2・3・4	2	すべての国民の精神的健康が課題となっている現代において、従来の精神障害者への支援だけでなく、新たに生じる精神保健問題にも対応していく専門職としての精神保健福祉士の役割は拡大している。社会環境の変化を通して精神保健を理解し、「精神的健康」への理解力、思考力をさらに深めることを目標とする。	1. 現代の重要な精神保健問題となっている、アルコール関連問題、薬物問題、自殺等の現状、取り組み、課題を理解する。 2. 新たな課題となる災害支援、犯罪被害者支援、性同一性障害等についての理解、対応を理解する。 3. 地域精神保健に関する諸活動の実践を通して、精神保健の維持・増進のために機能する専門機関、関連職種との役割と連携について理解する。 4. 主要各国の精神保健の取り組み、世界保健機関(WHO)の活動を学び、これからの精神保健の課題と支援を理解する。	○	○	◎	○	○

ディプロマ・ポリシー	<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。</p> <p>①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)          ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)          ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)          ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)          ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)</p>									
科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
精神保健福祉の原理1	講義	2・3・4	2	精神保健福祉の原理や理念、歴史、精神障害の定義や精神障害者の特性、精神保健福祉士の役割について学ぶ。	1. 障害者福祉の理念と歴史的展開について理解する。 2. 精神障害と精神障害者の概念について理解する。 3. 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造について理解する。	◎	○			
精神保健福祉の原理2	講義	2・3・4	2	精神保健福祉の原理や理念、歴史、精神障害の定義や精神障害者の特性、精神保健福祉士の役割について学ぶ。	1. 精神障害者の生活特性について理解する。 2. 精神保健福祉の原理と理念について理解する。 3. 精神保健福祉士の役割と機能について理解する。	◎	○			
現代家族論	講義	1・2・3・4	2	社会学としての家族の機能や形態についての理解し各自が考えていく。 そして、社会福祉における家族について、そして非行や犯罪といった司法福祉はもとより児童虐待や介護問題、障害者の結婚などの家族問題についても理解して、家族問題に対応できるようになる。	・対人援助職、特に更生保護職の領域において必要となってくる家族の基本知識や理論を学び理解できるようになる。 ・出産、学校での生活、就職、結婚、離婚、ターミナル、介護等のライフステージを通して家族周期的な課題や学生自らの考えを述べられるようになる。 ・学生個々の『家族観』『家族福祉観』『更生保護観』を明らかに表現できるようになる。	◎	○	○		
ソーシャルワーク理論と方法(専門)1	講義	3・4	2	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論と方法について学ぶ。	1. 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論について理解する。 2. 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法について理解する。 3. 精神保健福祉分野における家族支援の実際について理解する。 4. 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークについて理解する。	○	◎	○	○	
ソーシャルワーク理論と方法(専門)2	講義	3・4	2	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの理論と方法について学ぶ。	1. 精神保健福祉分野におけるソーシャルアクションについて理解する。 2. 精神保健福祉分野における多職種連携・多機関連携について理解する。 3. 精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーションについて理解する。 4. 関連分野における精神保健福祉士の実践について理解する。	○	◎	◎	○	
精神障害リハビリテーション論	講義	2・3・4	2	精神障害リハビリテーションの理念や原則、その内容と実際について学ぶ。	1. 精神障害リハビリテーションの理念、定義、原則について理解する。 2. 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係について理解する。 3. 精神障害リハビリテーションの構成と展開について理解する。 4. 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関について理解する。 5. 精神障害リハビリテーションの動向と実際について理解する。	○	◎	○	◎	
精神保健福祉制度論	講義	2・3・4	2	精神障害にかかわる福祉、医療などの支援制度について学ぶ。	1. 精神障害者に関する制度・施策について理解する。 2. 精神障害者の医療の制度について理解する。 3. 精神障害者の生活支援について理解する。 4. 精神障害者の経済的支援について理解する。 5. 精神障害者と生活困窮について理解する。	○		◎	○	
精神保健福祉援助演習1	演習	2・3	2	基本的な対人援助技術の習得と精神保健福祉士養成の指定科目群についての総合的理解を深める。 精神保健福祉の現場で、精神保健福祉士がどのような実践を行っているのか、事例などを通じて学ぶ。	1. 現場での事例などを学び、グループワークやロールプレイなどの演習形態により、学生自身が積極的に授業に参加し理解する。 2. 現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこなっているのか、役割を担っているのか等をイメージし、自分ならどう考え行動するかを表現できる実践的な理解を深める。	○	◎	○	○	○
精神保健福祉援助演習2	演習	3・4	2	現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこなっているのか等をイメージしやすいようにビデオやDVDなどの教材を活用し、学生が自分自身で学び、考え、主体的に行動する態度を養成する。	1. 現場での事例などを学び、グループワークやロールプレイなどの演習形態により、学生自身が積極的に授業に参加し理解する。 2. 精神保健福祉援助実習に先立ち、精神保健福祉をめぐる課題のなかから関心のあるテーマを深め、自らの問題意識として言語化する。	○	◎	○	○	○
精神保健福祉援助演習3	演習	3・4	2	精神保健福祉をめぐる課題とそれに対する専門職の役割について、精神保健福祉援助実習における経験をおととして学ぶ。	1. 精神保健福祉援助実習における経験を踏まえ、精神保健福祉をめぐる課題について、ディスカッション等をおととして考察を深める。 2. 実習体験をソーシャルワークの理論と結び付けることにより、精神保健福祉士の専門性や役割について理解する。	○	○	○	◎	○
精神保健福祉援助実習A	実習	3・4	5	適切な実習課題を立て、現場での実習をおととしてそれらの課題を遂行しつつ専門職として有しておかなければならない職業倫理・専門的知識、専門的技術を概念化し、理論化できるようにする。また、実習の全プロセスを通じて、精神保健福祉士として求められる資質や自己に求められる課題についても理解していく。	1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。 2. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に経験して、実習指導者による指導を受ける。	○	○	○	○	◎

ディプロマ・ポリシー		<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉学)の学位を授与します。</p> <p>①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につけている(知識)          ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につけている(技術)          ③個々の生活問題の背景にある地域や社会の諸課題とその解決について考えることができる(思考)          ④社会福祉の価値や倫理を身につけている(態度)          ⑤実践力を有する社会福祉専門職または福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)</p>								
科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
精神保健福祉援助実習B	実習	4	3	適切な実習課題を立て、現場での実習をとおしてそれらの課題を遂行しつつ専門職として有しておかなければならない職業倫理・専門的知識・専門的技術を概念化し、理論化できるようにする。また、実習の全プロセスを通じて、精神保健福祉士として求められる資質や自己に求められる課題についても理解していく。	1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。 2. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に経験して、実習指導者による指導を受ける。	○	○	○	○	◎
精神保健福祉援助実習指導1	演習	2・3	2	精神科病院等の病院・精神科診療所・地域の障害福祉サービス事業を行う施設等における配属実習に向けて準備を行い、実習のイメージがつかめるようになる。	1. 精神保健福祉援助実習の意義を理解し、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について、より具体的かつ実践的に理解できるようになる。 2. 精神保健福祉士として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を修得する。	○	◎	○	○	
精神保健福祉援助実習指導2	演習	3・4	2	「精神保健福祉援助実習A・B」と連動させ、実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、事前学習を中心に授業をすすめる。	1. 実習課題の選び方や課題達成の方法、記録の書き方等を学習しながら各自が自らの実習目標を定め、適切な実習計画を作成する。その過程で、必要となる専門知識・専門技術を段階的に習得していく。 2. 実習に向けてのグループ学習や個別指導を通して、精神保健福祉士として身につけておくべき職業倫理を理解する。	○	◎	○	○	
精神保健福祉援助実習指導3	演習	3・4	2	「精神保健福祉援助実習A・B」と連動させ、実習が意義あるものとなるよう、個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づいた事後学習を進める。	1. 精神保健福祉援助実習終了後のふりかえりを行うことで、配属実習における体験や援助経験を概念化し、理論化することができるようになる。 2. 実習をとおして気づいた自らの課題について考察する。 3. 上記の事柄について言語化することをおして、将来の援助者としての自覚を促していく。	○	◎	○	○	
卒業論文		4	6	4年間の学習成果を集大成する研究活動である。先行研究をふまえながら、各自の関心に沿った社会福祉分野の問題設定をし、それに見合った手法で解決策が提示され、学術的論文が作成できることを目指す。	1. 先行研究の文献調査ができる。 2. 社会福祉学の研究手法を習得する。 3. 独自の意見を論理的に構成し研究論文が作成できる。	◎	◎	◎	◎	◎